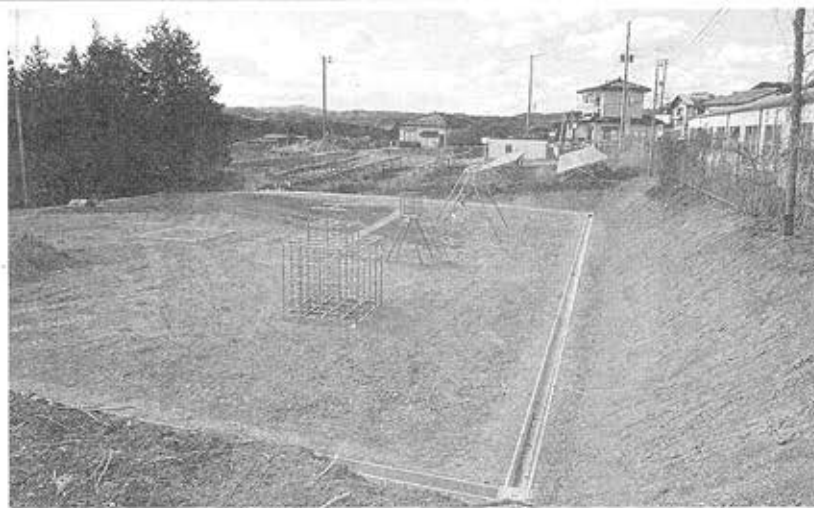


障害者福祉充実へ

「ほっぶ」本吉 民間の善意で施設拡充



新施設の建設予定地

気仙沼市本吉町登米沢地内の障害者福祉施設「ほっぶ」(佐藤工理事長)が、サービス充実に向けて移転新築する。施設を拡充し、これまでの放課後一時預かりに加え、日中一時支援や就労支援などを展開する計画。事業費には県内外の民間からの善意が充てられ、

職員は「より良い環境で子供たちを預かることができる」と感謝している。「ほっぶ」は、震災後の避難所生活で障害者や家族の居場所が少なかったことから設置。NPO法人を立ち上げてプレハブの仮施設を建設し、26年2月から一時預かりを始めた。

現在は、市内の小学校1年から高校3年まで22人が利用する。しかし、活動室は約22平方メートルと狭いため、子供たちの特徴に合わせた部屋を分けたり、自由に遊ばせたりするスペースがなかった。

新施設は、津谷幼稚園近くの民有地約5200平方メートルを買い上げて建設する。木造平屋建て(延べ床面積約260平方メートル)で、活動室2室のほか、食堂や指導室、風呂などを設置、残りは公園と果樹園にする。事業費約8千万円は、豊里町の個人や、活動への支援を続ける県外の外部理事らが寄せた善意を充てる。4月上旬に着手し、10月末ごろの供用開始を目指す。現在9人のスタッフを増員する予定。佐藤理事長は「子供たちがストレスを感じない環境を整えたかった。住み良いまちづくりに加えて、高齢者福祉に実が必要。活動に賛同し、善意を寄せてくださった方々に感謝したい」と話していた。